

## 平成 27 年度

### 特別展「初夏を彩る 清方の名品」

花盛りの藤や、しとしと降る五月雨、柔らかい日差しや、かぐわしき花の薫りなど、暮春から初夏にかけて自然がみせる表情は、巡る季節の中で清方がもっとも好んだものだった。

清方は、近世から明治にかけて生まれた豊饒な文化の中に材を求めながら、季節の美も取り入れて、作品の中で見事に融合させている。本展覧会では初夏の風情が描かれた作品を中心に紹介した。

会期 平成 27 年 4 月 17 日(金)～5 月 20 日(水)

(開館日数:31 日)

総入館者数 3,124 人(一日平均:101 人)



#### 関連事業

「市民講座」

【開催日時】平成 27 年 4 月 21 日(火)～25 日(土) 学芸員等による美術館や清方に関する講座を実施。

「美術館でどう観るの？ひとまず行ってみよう！」【日時】5 月 2 日(日) 展示解説付き鑑賞プログラム。

「日本画材ワークショップ」【日時】5 月 3 日(日) ①13:30～15:00 ②15:00～16:30

「Bijinga 百花繚乱 浮世絵師 VS 清方」【開催期間】平成 27 年 4 月 1 日(水)～12 日(日)

江戸の浮世絵師から清方まで、美人画をお楽しむため、太田記念美術館と入館料の相互割引を実施。

「鎌倉文化ゾーン[小町通り・八幡宮エリア] ミュージアムめぐり スタンプラリー」

【開催期間】平成 27 年 4 月 11 日(土)～平成 28 年 1 月 31 日(日)

#### 関連記事

「鎌木清方記念美術館 特別展 初夏を彩る-清方の名品」(広報かまくら 4 月 15 日)

「初夏の美をあじわう 清方美術館で特別展」(タウンニュース 4 月 17 日)

他 3 件

#### 出品作品

作品名	制作年	技法/材質・形状	サイズ	所蔵
墨田川兩岸(梅若塚・今戸)	大正 6 年 (1917)頃	絹本着色・軸(双幅)	(各)142.2×50.5	川口市蔵
夏の武家屋敷	昭和 32 年(1957)	紙本着色・軸	56.8×55.3	株式会社ヤマタネ蔵
紫暎	昭和 20 年(1945)	絹本着色・額	57.5×71.6	同上
富士額	制作年不詳	絹本着色・額	54.0×71.5	学校法人城西大学 水田美術館蔵

#### 【所蔵品】

「朝涼」「水汲」「新大橋之景」「清子四歳像」「砂浜少女」「襟おしろい」「あじさい」「浅みどり」「ふたつあちさみ」「山百合」「手賀沼(寄託作品)」

下絵・スケッチ 「河沿いの家(下絵)」「紫陽花の谷(下絵)」「五月雨(下絵)」「朝涼スケッチ」

『文藝倶楽部』口絵 「いで湯の夕べ」「汐干狩」「梅雨晴」「白鳥 口絵・下絵・校合摺」「島の美人(下絵)」「決死水兵(下絵)」「待つ妻 校合摺・口絵」「髭(下絵)」「いのち毛(校合摺・口絵)」「未亡人 校合摺」「伊達正宗 阿武隈川の勇戦 校合摺」「あさ露 下絵・校合摺・口絵」「首途 下絵・校合摺」「深沙大王」「旗艦三笠の奮闘 校合摺」「関ヶ原七本槍 校合摺」「鬼上官清正 校合摺」「吉野落 校合摺」

『新小説』口絵 「櫻珞品 校正摺」「沼の女」「起誓文」「きぬぎぬ川」「舞の袖」「五日市」

『清方美人画譜』 「五月雨」「午後の海」「春雨の寮」「島田くづし」「白壁」

その他口絵 「夕涼み『文藝界』(第 4 卷 9 号)」「五月雨『今様 夏の巻』松屋呉服店」「さつき花」

清方意匠 「朝顔 風呂敷 清方意匠 清方五十日祭「志」」「あじさい テーブルセンター 清方意匠 「鎌木清方展」記念」「扇子 清方意匠(復刻) 靖国神社」

## 特別展 「美の伝承 —清方と弟子たち」

大正 4 年(1915)6 月、技術が伴わなくても本質がよい作品を展示できるようにと「郷土会」の第一回展覧会が開催された。本展覧会では、郷土会発足から 100 年を記念し、弟子たちが清方夫妻の金婚式を祝って描いた画帖を初公開し、また、清方の郷土会展出品作品とともに清方の名品を紹介した。

会期 平成 27 年 5 月 23 日(土)～6 月 28 日(日) (開館日数:31 日)

総入館者数 3,918 人(一日平均:126 人)

### 関連事業

美術講演会 「日本画材の変遷と鏑木清方時代の日本画」

【講師】上田邦介氏(有限会社絵具屋三吉)【日時】5 月 26 日(火)午後 1 時 30 分～3 時 30 分

「日本画ワークショップ」【日時】平成 27 年 6 月 20 日(土) ①13:30～15:00 ②15:00～16:30

「鎌倉文化ゾーンミュージアムめぐり スタンプラリー」【開催期間】平成 27 年 4 月 11 日(土)～平成 28 年 1 月 31 日(日)

「小さな美術館へようこそ」(北鎌倉 葉祥明美術館との相互割引)

【開催期間】平成 27 年 5 月 23 日(土)～平成 28 年 3 月 31 日(日)

### 関連記事

「鏑木清方記念美術館 特別展 美の伝承-清方と弟子たち」(広報かまくら 6 月 1 日号)

他 11 件



出品作品 (※) のついている作品は展示替を行った。

作品名	制作年	技法/材質・形状	サイズ	所蔵
立田の錦	不詳	絹本着色・軸	40.4×51.1	光ミュージアム蔵
五月晴	昭和 24 年(1949)	絹本着色・軸	63.5×72.0	同上
お稽古	昭和 4 年(1929)	紙本着色・軸	44.3×58.0	同上
神田祭	昭和 10～15 年 (1935～40)頃	絹本着色・軸	48.8×56.3	同上
今様浅妻舟	昭和 13 年(1938)	絹本着色・軸	138.0×51.0	同上
紅葉	昭和 22 年(1947)頃	絹本着色・軸	50.0×57.0	同上
卯月の装	昭和 31 年(1956)	絹本着色・軸	65.0×42.0	同上
権八 小紫 (二人美人図)	昭和初期	絹本着色・軸	143.0×50.5	同上
こころのふるさと 江戸十二月月 (※)	昭和 25 年(1950)	紙本着色・屏風(短尺)	(各)43.5×17.5	同上
深川冬木 池畔の雨	昭和 3 年(1928)	紙本着色・軸	50.5×57.0	同上
夏姿	昭和 15 年(1940)	絹本着色・軸	119.8×26.8	同上
清秋	不詳	絹本着色・額	59.0×72.7	同上
行水	不詳	紙本着色・軸	60.0×39.0	同上

### 【所蔵品】

「夏の柳井戸(柳乃井戸)」「僧房春蘭(牡丹の寺)」「弟子の寄書「五星連珠」(※)」「牡丹 一・二」「子供二人」「註文帖(全 13 図)」「金沢絵日記」「絵日記(東京湾)」

下絵・スケッチ 「蟹と童(下絵)」「初雁の御歌(小下絵)」「バラの花(スケッチ)」「ばら(スケッチ)」

小栗風用著作口絵 『麗子夫人(前編・後編)』木版口絵 『恋女房』木版口絵

菊池幽芳著作口絵 『月魄 藤乃之巻』木版口絵・校合摺 『百合子(中編・後編)』木版口絵 『筆子 筆子の巻』校合摺・木版口絵 『筆子 初枝の巻』下絵・木版口絵 『お夏文代 前編』下絵・木版口絵 『毒草 (お品の巻・お仙の巻)』口絵

泉鏡花著作口絵 『無憂樹』下絵・木版口絵 『恋女房』校合摺・木版口絵 『三枚續』下絵・木版口絵・装丁

『講談雑誌』口絵 「盆提灯(清方畫譜の七)」「菖蒲湯(清方畫譜の五)」

『新小説』口絵 「虎の門 見立十二姿の内」「胡蝶之曲 下絵・石版口絵」

『婦人世界』口絵 「星多き夜」「春霞巾を着けた女」 『少女界』口絵 「草莓」「海水浴」「さみだれ」

書籍 「夜蕾亭応接室写真『續こしかたの記』(中央公論美術出版)」「松田青風著『歌舞伎のかつら』(演劇出版社 昭和 34 年初版発行)」

## 企画展「清方の作品から学ぶ、日本画の描き方」

清方は、挿絵画家として新聞や雑誌の小説へ多くの挿絵を描き、人物を線でとらえる修練を積んだ。やがて日本画家を志し、展覧会へ出品を重ねる。そして主に江戸の文化に取材した作品は、情趣豊かな芸術作品と認められるようになった。本展覧会では、明治から昭和半ばまでの清方の画業をたどりながら、日本画の描法や画材について紹介した。

会期 平成 27 年 7 月 3 日(金)～8 月 23 日(日) (開館日数:45 日)

総入館者数 3,243 人(一日平均:72 人)

### 関連事業

「日本画材を使って、うちわに絵を描こう！」

【開催日時】7 月 20 日(月・祝) ①13:30～15:00 ②15:00～16:30

「日本画制作実演」

日本画家・長谷川幾代氏による日本画の制作実演。【開催日時】7 月 25 日(土)・26 日(日) 13:30～15:30

「美術館ってどう観るの？ひとまず行ってみよう！～日本画って？～」【開催日時】7 月 28 日(火) 10:00～12:00

「親子で美術館へ行ってみよう！」(予約制) 【日時】7 月 30 日(木) 9:30～11:30

「夏休みは鎌倉&横浜へ！そごう美術館とのお得な相互割引！」 横浜美術館との相互割引を実施。

【開催期間】平成 27 年 7 月 3 日(金)～8 月 30 日(日)

「鎌倉の小さな美術館へようこそ！」【開催日時】平成 27 年 5 月 23 日(土)～平成 28 年 3 月 31 日(日)

北鎌倉 葉祥明美術館との入館料相互割引

「鎌倉文化ゾーン[小町通り・八幡宮エリア] ミュージアムめぐり スタンプラリー」

【開催期間】平成 27 年 4 月 11 日(土)～平成 28 年 1 月 31 日(日)

「夏休み親子鑑賞」【開催期間】平成 27 年 7 月 3 日(金)～8 月 23 日(日) 会期中、小・中学生及び同伴者観覧料無料

### 関連記事

「鎌木清方記念美術館 企画展 清方の作品から学ぶ、日本画の描き方」(広報かまくら 7 月 15 日) 他 6 件

### 出品作品

「一葉女史の墓」「桜もみぢ」「カルメン」「妓女像(未定稿・左幅)」「風景(池)」「風景(金沢・瀬戸)」「干物」「鯉」「夕立雲」

「夏の生活」「君ヶ寄漫筆」「金沢絵日記 五」「絵日記(里から町へ)」「游心庵漫筆」「金沢絵日記」「絵日記(東京湾)」

模写 「勝川春章「婦女風俗十二ヶ月」の内「四月 杜鵑」模写」「喜多川歌麿「鷺娘」「道成寺」「三番叟」模写」

下絵・スケッチ 「桜もみぢ」「妓女像(下絵・左幅)」「金沢游心庵(下絵)」「筆捨松(下絵)」「霽れゆく村雨(小下絵)」「一葉女史の墓 スケッチ」

絵葉書 「妓女像 絵葉書」「霽れゆく村雨 絵葉書」

『文藝倶楽部』口絵 「湯治場」「蚊遣の煙」「ゆふ暮」「そぞろあるき」「勇婦巴御前(校正摺)」「蔚山沖大海戦(校正摺)」「豪膽の兵士(校正摺・口絵)」「赤十字(校正摺)」「白雨録」「門出(下絵)」「その一聲(校正摺)」「鳶紅葉(校正摺)」「新知己(校正摺)」「畫題『統一』(下絵・校正摺)」

『文藝界』口絵 「夕涼み」

渡辺霞亭著作口絵 「渦巻(上編・中編)」「新渦巻 光子の巻」

泉鏡花著作口絵 「風流線」

泉斜汀著作口絵 「松葉家乃娘」

鎌木清方文(「美人画解説」「婦人公論」) 「小林古径作 婦女圖」「勝川春章作 ほととぎす」「土田麥僊作 林泉舞妓」「鳥居清長作 隅田川」

鎌木清方文・その他 「「美人の変遷」(『婦人公論大學])」「「画家は特殊な天分が必要」(『婦人世界])」

鎌木清方著作 『新浮世絵講義』『風俗画技法』『にぎりえ画譜』

鎌木清方編 『日本風俗画大成6』

うちわ 「朝顔(井戸)」「のれん」「日傘」



## 企画展「秋の情趣 清方の多彩な表現」

清方は、草花や着物の文様、人々の生活に溶け込んだ風物など四季折々の情趣を、巧緻な筆づかいと繊細な色彩で描いた。その豊かな表現は、軽やかな虫の鳴声、ほのかな菊の香り、風に揺れる草木がたてる乾いた音まで観る者に感じさせてくれる。本展覧会では、秋の情趣あふれる名品を中心に清方の多彩な表現を紹介した。

会期 平成 27 年 8 月 29 日(土)～10 月 18 日(日)

(開館日数:45 日)

総入館者数 5,106 人(一日平均:113 人)

### 関連事業

「美術館ってどう観るの？ひとまず行ってみよう！～作品カードで視点が変わる？～」

【開催日】9 月 8 日(火) 鑑賞入門プログラム。学芸員による展示解説のほか、作品カードを用いた鑑賞を実施。

「日本画ワークショップ」日本画の画材と技法を用いて、絵を描くワークショップを開催。

【開催日時】9 月 12 日(土)・10 月 10 日(土)

「夏休みは鎌倉&横浜へ！そごう美術館とのお得な相互割引！」 横浜美術館との相互割引を実施。

【開催期間】平成 27 年 7 月 3 日(金)～8 月 30 日(日)

「鎌倉の小さな美術館へようこそ！」北鎌倉 葉祥明美術館との入館料相互割引

【開催日時】平成 27 年 5 月 23 日(土)～平成 28 年 3 月 31 日(日)

「鎌倉文化ゾーン[小町通り・八幡宮エリア] ミュージアムめぐり スタンプラリー」

【開催期間】平成 27 年 4 月 11 日(土)～平成 28 年 1 月 31 日(日)

### 関連記事

「鎌木清方記念美術館 企画展 秋の情趣 清方の多彩な表現」(広報かまくら 9 月 1 日号)

「鎌木清方記念美術館 秋の情趣 清方の多彩な表現」(美じょん新報 8 月 1 日号)

「鎌木清方記念美術館 企画展 秋の情趣 清方の多彩な表現」(湘南百撰 9 月 1 日号)

「鎌木清方記念美術館 企画展 秋の情趣 清方の多彩な表現」(かまくら四季のみどころ 10 月 1 日号)

他 10 件

### 出品作品

「孤児院」「虫の音」「渡邊霞亭著「砧」「ほづき」「秋草(寄託作品)」「芸妓」「太夫」「清流」「狐狗狸」「龍膽」「大蘇芳年」「菊慈童」「雑司ヶ谷会式」

下絵 「菊花節」「瀧野川観楓」「山茶花の窓」「柿と童」「初雁の御歌(小下絵)」

スケッチ 「芳年の墓」「栗」「萩」「雪の下画室東窓」「碓氷紅葉」「秋海棠・野萱草」「菊」

『文藝倶楽部』口絵 「夜長」「八幡鐘」「こすもす」

『少女界』口絵・表紙 「葡萄(口絵)」「観菊(口絵)」「コスモス(口絵)」

『少年界』表紙絵 「『少年界』(表紙絵)」

清方畫譜 「九月の海(清方畫譜の九)」「旅愁(清方畫譜の十)」「秋のおとづれ」

小栗風葉著作関連 「『戀学生』口絵」

渡辺霞亭著作関連 「『勝鬨』(前編・中編・下編)口絵」

江見水蔭著作関連 「『二人女王』口絵」

田口掬汀著作関連 「『三晝夜』口絵下絵・口絵」

松居松葉著作関連 「『一夜畫工』表紙・口絵」

その他口絵 「散るいてふ(『婦人世界』)」「秋の旅」「お夏狂乱」「栗むく女」「思ひ出」「菊」「かりがね」「とんぼつり」「秋ばれ」「ほづき」

東京 築地川『画集 東京と大阪』 「亀井ばし」「作者」

註文帳畫譜



## 特別展「清方 清らかな女性たち ー木原文庫より」

清方は、明治末より挿絵から日本画へ軸足を移し、大展覽会への出品を重ねた。そして、大正に入ると日本画壇で美人画家として知られるようになり、江戸の面影を残す明治の佇まいや季節の抒情、江戸の文芸や芝居の場面など、そこに通底する女性の美を追求し、画域を広げようと風景画も手がけた。本展覧会では、大正から昭和の初めにかけての清方の芸術を、木原文庫の名高い近代日本画コレクションを中心に紹介した。



会期 平成 27 年 10 月 24 日(土)～11 月 29 日(日) (開館日数:31 日)

総入館者数 3,961 人(一日平均:128 人)

### 関連事業

美術講演会「鑑木清方と浮世絵美人画」【講師】内藤 正人氏(慶應義塾大学教授・同大アート・センター所長)

【日時】平成 27 年 11 月 16 日(月) 午後 1 時 30 分～3 時 30 分

「日本画ワークショップ」【開催日】11 月 28 日(土) 「美樹 t 館鑑賞入門」【開催日】11 月 6 日(金)

「日本画制作実演」【日時】11 月 22 日(日)・23 日(月・祝) 13:30～15:30 日本画家による日本画の制作実演。

「鎌倉文化ゾーン[小町通り・八幡宮エリア] ミュージアムめぐり スタンプラリー」【開催期間】平成 28 年 1 月 31 日(日)まで

「鎌倉の小さな美術館へようこそ！」北鎌倉 葉祥明美術館との入館料相互割引【開催日時】平成 28 年 3 月 31 日(日)まで

### 関連記事

「鑑木清方記念美術館 特別展 清方 清らかな女性たち-木原文庫より」(鎌倉逍遥 秋号)

他 8 件

### 出品作品

作品名	制作年	技法/材質・形状	サイズ	所蔵
小田原天神山	制作年不詳	絹本着色・軸(双幅)	(各)129.5×31.5	木原文庫蔵
初夏の雨	制作年不詳	絹本着色・軸	48.0×58.0	同上
明治風俗 すゞみ舟	制作年不詳	絹本着色・軸	40.0×50.5	同上
合歓	昭和 10 年代後半	絹本着色・軸	120.0×27.5	同上
夕潮	制作年不詳	絹本着色・軸	115.0×36.0	同上
花いはら	大正末期	絹本着色・軸	126.0×41.0	同上
合歓の花	制作年不詳	絹本着色・軸	144.0×51.0	同上
重陽佳節	制作年不詳	絹本着色・軸	129.0×41.5	同上
鏡獅子	昭和 9 年(1934)	絹本着色・軸	127.5×41.7	同上
野崎村	制作年不詳	絹本着色・軸(双幅)	(各)118.5×33.4	同上
道成寺	昭和 13 年(1938)	絹本着色・軸	124.0×36.0	同上
おかる	制作年不詳	絹本着色・軸	115.5×27.8	同上
秋野	制作年不詳	絹本着色・軸	124.2×35.7	同上

### 【所蔵品】

「柳の下に涼む娘」「笠の曲(娘道成寺)」「崔承喜 二」「山百合」「金沢絵日記 五」「勝川春章《婦女風俗十二カ月 七月七夕》模写」

下絵 「小説家と挿絵画家」「帯」「黒髪(小下絵)」 スケッチ 「築地明石町のためのスケッチ」(2 点)

文学関連口絵等 「無憂樹」「戀女房」「神鑿」「高野聖(『現代名作集』)(下絵・口絵)」「さゝ蟹(『田毎かゞみ』)」「式部小(差上げ)」「婦系圖 後編」「薄紅梅」「たけくらべ(『現代名作集』)口絵原画・口絵原画(下絵)」「金色夜叉 続編(校合摺)」「『金色夜叉絵巻』挿絵(下絵)」「夢の中のお宮(『尾崎紅葉全集』)」「恋の浮島」「女海賊」「野蛮人」「海水浴」「大暗礁前編」「錨」「美人船」「江見水蔭・万代山影合作「荒鷲の爪痕」」「浮沈 前編」「黒牡丹」「小夜ちどり」「女教師」「『黒田健次後編』水野年方作口絵」「『鬼奴』武内桂舟作口絵」「乳姉妹 後編」「毒草 お品乃巻」「毒草 お仙乃巻」

『文藝俱樂部』口絵 「あさ露」「伽羅」「よき事さく」「小春」 『演藝俱樂部』口絵 「茶屋の二階」「三ツ俣川の高尾」

『新小説』口絵 「秋江(一情一景)」「五日市」「紅雪緑」「楊柳歌」

その他 「『和洋礼式 日用百科全書 第一編』水野年方作口絵」「観劇中の紅葉と鞆彦 スケッチ『続明治文学史 上巻』東京堂」「築地明石町(切手・版画)」

## 企画展「新春の風情と羽子板展」

明治のはじめに生まれ、江戸から脈々と続く年中行事を自然と受け継ぎ育った鏗木清方は、新年を迎えると氏神へ出向き、さらに恵方参り、七福神詣で、初卯詣でなどを楽しんだ。そして弟子たちと心新たに筆をとり、念願成就を込め宝珠を描いた。本展覧展では、新春の風情豊かな作品や新年を迎えた清方の心情を随筆から紹介し、あわせて新年にちなみ押絵師・永井周山が清方作品を意匠化した押絵羽子板《明治風俗十二ヶ月》を紹介した。

会期 平成 27 年 12 月 5 日(土)～平成 28 年 1 月 17 日(日) (開館日数:33 日)

総入館者数 3,939 人(一日平均:119 人)



### 関連事業

「鏗木清方と山口蓬春」

【開催期間】平成 28 年 1 月 7 日(木)～平成 28 年 3 月 21 日(月・振)まで

・鏗木清方と山口蓬春 吉田五十八建築にみる日本画家の画室

建築家・吉田五十八(1894～1874)が設計した画室をこよなく愛した清方と蓬春の記念美術館が連携して、ワークシートを使った鑑賞イベントと入館料の相互割引を開催。

・きもので美術館めぐり 鎌倉・葉山 期間中、着物で来館された方、各館先着 100 名様に両館のオリジナルグッズ贈呈

「美術館ってどう観るの?ひとまず行ってみよう!～思ひ出の年末年始を語ろう!」【開催日】平成 27 年 12 月 8 日(火)

「鎌倉文化ゾーン ミュージアムめぐり スタンプラリー」【開催期間】平成 28 年 1 月 31 日(日)まで

「鎌倉の小さな美術館へようこそ!」北鎌倉 葉祥明美術館との入館料相互割引

【開催日時】平成 28 年 3 月 31 日(日)まで

### 関連記事

「鏗木清方記念美術館 企画展 新春の風情と羽子板展」(旅うらら 鎌倉・湘南ガイド MAP 10 月 29 日)

「鏗木清方記念美術館 企画展 新春の風情と羽子板展」(かまくら四季のみどころ 12 月 1 日、28 年 1 月 1 日)

「鏗木清方記念美術館 新春の風情と羽子板展」(あさひタウンメイト 12 月 5 日)

「鏗木清方記念美術館 新春の風情と羽子板展」(鎌倉逍遙 冬号)

他 12 件

### 出品作品

「永井周山作・押絵羽子板『明治風俗十二ヶ月』」「松のうち」「一葉女史の墓」「ためさるゝ日(右幅)」「春の立場茶屋(金沢春景)」「歳旦」「有卦自祝之絵」「鉢植の梅松(試筆)」「妓女像(未定稿・左幅)」「大和路の或る家」「道行浮埒鷗」「宝珠」「美人舞之図 肉筆回覧誌『美術くら遍一』の内」「樽人形 肉筆回覧誌『研究畫林 卷之壹』の内」

下絵 「雪旦」

スケッチ 「蕪」「松飾り」「初日の出」

『文藝俱樂部』口絵 「春を待つ」「餅むしろ」「赤十字(校正摺)」「白雨録」

『文藝俱樂部』附録 「時代美人風俗雙六附録」「新案雙六當世二筋道附録」「鏗木清方・齋崎英朋 合作 新年大附録『松の内』」「軍国をんな雙六」

『講談雑誌』口絵 「炬燵(清方畫譜の十二)」「初夢(清方畫譜の一)」「嬌音(清方畫譜の二)」

『少女界』口絵 「きさらぎ」「初日の出」「鉢の梅」「クリスマス」

『少女界』附録 「宮川春汀・鏗木清方 合作 歴史雙六」

『婦人公論』口絵 「歌留多會の夜」

『大正婦人』口絵 「初東風」

『婦人世界』 「元日の朝」「さくら色」

『新小説』口絵 「瑞香(百花百姿)」「虎ノ門 見立十二姿の内」

その他口絵 「年始まわり」「初雪」「炬燵の少女談話會」「今と昔の学生」「暗香」「都大路(『文藝界』)」「紅梅(『女學世界』)」「楽しき贈り物」「ちん年おめでたう」「菊池幽芳著『小ゆき』後編」「小栗幽芳著『新かつら下地』後編」「風俗美人画(一)松の内」

風呂敷 「扇面に竹と梅」「凧と梅」「扇面に松と飴や」「扇子に橘」

ふくさ 「梅」「松皮菱に梅」「氷梅」「氷梅 原画」

テーブルセンター 「松皮菱に梅」

年賀状 「清方意匠 年賀状」

## 企画展「清方芸術の起源」

明治11年(1878)東京に生まれ、13歳で水野年方に弟子入りし、16歳頃から挿絵画家の道を歩み始めた鏗木清方。20代で人気挿絵画家として活躍する傍ら、日本画の腕も磨いた。29歳を迎えた明治40年(1907)に開設された文部省美術展覧会(文展)をきっかけに日本画に専心するようになる。

明治から昭和を生きた清方は、近代化による開発や戦災などの被害で変わってゆく街の姿に寂しさを覚えつつ、明治の庶民の平穏な生活に思いを馳せ、愛しむように描いた。本展覧会では、日本画家としての画業の始まりから後年に辿り着いた画業まで、明治に生きた市民の穏やかな生活を描いた名作《朝夕安居》を中心に紹介した。



会期 平成28年1月21日(木)～2月21日(日) (開館日数:28日)

総入館者数 3,173人(一日平均:113人)

### 関連事業

「鏗木清方と山口蓬春」

【開催期間】平成28年1月7日(木)～平成28年3月21日(月・振)まで

・鏗木清方と山口蓬春 吉田五十八建築にみる日本画家の画室

建築家・吉田五十八(1894～1874)が設計した画室をこよなく愛した清方と蓬春の記念美術館が連携して、ワークシートを使った鑑賞イベントと入館料の相互割引を開催。

・きもので美術館めぐり 鎌倉・葉山

期間中、着物で来館された方、各館先着100名様に両館のオリジナルグッズをプレゼント。

「鎌倉文化ゾーン ミュージアムめぐり スタンプラリー」【開催期間】平成28年1月31日(日)まで

「鎌倉の小さな美術館へようこそ！」北鎌倉 葉祥明美術館との入館料相互割引

【開催日時】平成28年3月31日(日)まで

### 関連記事

「鏗木清方記念美術館 企画展 清方芸術の起源」(鎌倉逍遥 新春号 平成28年1月発行)

「鏗木清方記念美術館 清方芸術の起源」(かまくら四季のみどころ 平成28年2月1日発行)

「鏗木清方記念美術館 清方芸術の起源」(かまくら春秋 平成28年2月1日発行)

「鏗木清方記念美術館 明治の庶民生活描く」(神奈川新聞 2月12日)

他11件

### 出品作品

「暮れゆく沼」「舞妓」「朝夕安居」「先師の面影」「絵燈籠(書・初代中村吉右衛門 画・鏗木清方)」「一葉女史の墓」  
「梅蘭芳 天女散華」「雪空」「しだれ桜」「朝夕安居 詞書」「雨華庵風流」「二人静」「一葉(未定稿)」「清子四歳像」  
「妓女像(未定稿・左幅)」「早見の藤太」「年増美人」「梅」「崔承喜 一」「女役者衆八」

下絵 「雪旦」「大橋際のむきみや」「下町に灯のともる頃」「朝夕安居(昼)」

スケッチ 「桜」「雛飾り」

『文藝倶楽部』口絵 「鸚鵡」「緋桃」「雛壇の下」「紅さす女」

『新小説』口絵 「楊柳歌」「店暖簾」「試験」「波よ嵐よ」

『婦人世界』口絵 「春霞巾を着けた女」

菊池幽芳著作関連 「『百合子』中編・後編」

泉鏡花著作関連 「『三枚續』(木版口絵・木版袋装丁・木版表紙装丁・書籍)」

『清方美人畫譜』 「幕間」「五月雨」「午後海」「春雨の寮」「白壁」「青き星」「初雪」「湖のほとり」「濱町河岸の秋」「島田くずし」

『東京築地川』 「目録」「伊達家水門」「組立燈籠」「亀井ばし」「鉄砲洲」「船屋住居」「佃島」「獺化ける」「築地橋」「氷店」「紫陽花の垣」「作者」

『苦楽』表紙絵 「雪」「霽」「ふた昔」「たけくらべの美登利」「高野聖」「梅屋敷」

その他 「鏗木清方・鯨崎英朋 畫博堂報條」

## 企画展 「制作と生きがい ～清方の人生の岐路を追う」

出版業界が益々活況を呈した明治時代後期、売れっ子の挿絵画家として活躍していた清方は、文芸の世界で安定した地位を築いたものの、次々と舞い込む仕事に追い立てられるような日々を送っていた。そんな中、明治40年に第一回文部省美術展覧会(文展)が開かれる等、日本美術界には新たな潮流が生まれつつあった。日本画制作にも研鑽を積んでいた清方は、より自由な制作と生きがいを求め、日本画家という新たな道へ進むことを決意する。本企画展では、挿絵画家から日本画家へと転身を図った20代後半から30代にかけての制作に焦点をあて、彩り美しい口絵や挿絵、装丁などとともに、初期の日本画作品を中心に紹介した。

会期 平成28年2月26日(金)～4月17日(日) (開館日数:45日)

総入館者数 3,724人(一日平均:83人)



### 関連事業

「竈木清方と山口蓬春」

【開催期間】平成28年1月7日(木)～平成28年3月21日(月・振)まで

・竈木清方と山口蓬春 吉田五十八建築にみる日本画家の画室

建築家・吉田五十八(1894～1874)が設計した画室をこよなく愛した清方と蓬春の記念美術館が連携して、ワークシートを使った鑑賞イベントと入館料の相互割引を実施。

・きもので美術館めぐり 鎌倉・葉山 期間中、着物で来館された方、各館先着100名様に両館のオリジナルグッズ贈呈  
「鎌倉の小さな美術館へようこそ！」北鎌倉 葉祥明美術館との入館料相互割引

【開催日時】平成28年3月31日(日)まで

### 関連記事

「竈木清方記念美術館 企画展 制作と生きがい～清方の人生の岐路を追う」(広報かまくら 3月1日号)

「竈木清方記念美術館 企画展 制作と生きがい～清方の人生の岐路を追う」(しろがね 春号)

「企画展 制作と生きがい～清方の人生の岐路を追う」(鎌倉逍遥 早春号)

他 17件

### 出品作品

「嫁ぐ人」「秋宵」「金色夜叉の絵看板」「寫生」「曲亭馬琴」「栗をむく娘」「寒月」「浅みどり」「深沙大王」「小楠公弁の内侍を救う」「白梅」「太夫」「桜乙女」「寺子屋画帖」

下絵 「いでゆの春」「寒月」

スケッチ 「金色夜叉」「沈丁花」

『文藝倶楽部』口絵 「都鳥」「瓜紅」「花吹雪」

江見水蔭著作関連 「『二人女王』表紙絵・口絵」「江見水蔭著『花』表紙絵・口絵」

島崎藤村著作関連 「島崎藤村 姉弟(参考図意)」「姉弟(島崎藤村著『破戒』(復刻版))」「収穫(島崎藤村著『破戒』口絵)」

その他文学関連 「渡邊霞亭著『渦巻 続編』口絵」「小杉天外著『魔風戀風 中編』口絵」「物集梧水著『罪の命』口絵」「村上浪六著『當世女 前編』口絵」「柳川春葉著『浮沈 前編』口絵」「泉斜汀著『松葉家の娘』口絵」「広津柳浪著『仇と仇 前編』口絵」「松居松葉著『煙草盆』表紙絵・口絵」「小栗風葉著『戀女房』表紙絵・口絵」「田口掬汀著『伯爵夫人』前編 口絵」「尾崎紅葉原著『金色夜叉絵巻』挿絵」「稲岡奴之助著『姉の仇』表紙絵・口絵」

『講談雑誌』口絵 「浮いて鷗の(清方畫譜の三)」「光のどけき(清方畫譜の四)」

『演藝畫報』附録 「對牛樓の旦開野(下絵・差上げ)」

『歌舞伎』関連 「第18号挿絵」「英獅子 表紙・裏表紙(校正摺)、表紙」「兼房小紋に蘆と鷺 表紙・裏表紙(校正摺)、表紙」「牡丹燈籠 表紙・裏表紙(校正摺)、表紙」「伊左衛門の紙衣と編笠表紙・裏表紙(校正摺)、表紙」「男之助の隈取と仁木の上下 表紙・裏表紙(校正摺)」

『少女界』関連 「観梅(表紙)」「花の蔭(口絵)」

『新小説』関連 「初卯(挿絵)」「新緑(口絵)」「当世女模様 音楽家(挿絵)」

その他 「上野の花(口絵)」「『明治・大正・昭和 挿絵文化展記念図録』(日本電報通信社)」

「春装(『国民新聞』附録)」